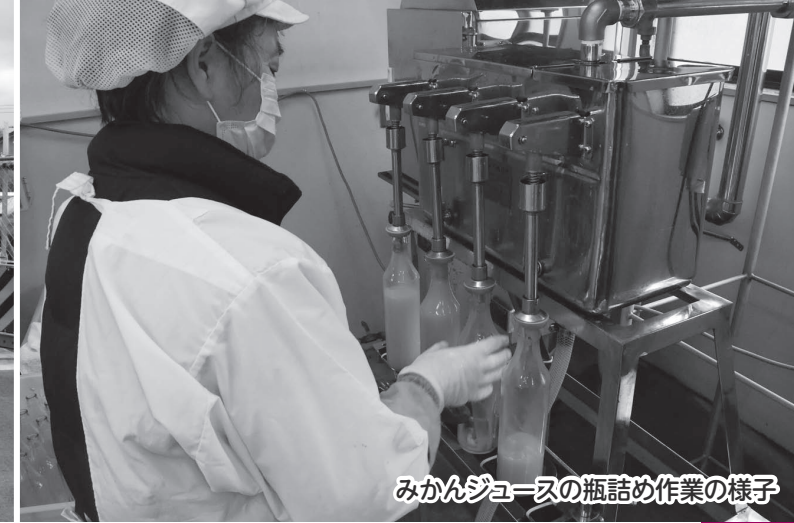


委員会からの調査報告

2つの常任委員会では、それぞれテーマを掲げて調査・研究を行っています。寄居町にどう活かせるか……。今回は先進地視察の報告です。
今回の視察をふまえ、2委員会とも引き続き調査研究を続けていきます。



駅舎の完成が待たれる用土駅



みかんジュースの瓶詰め作業の様子



御代田町やまゆり公園

2月8日・長野県上田市 総務経済常任委員会(農商工連携について)

参考にした「上田ブランド」の取り組み

長野県上田市の農産物加工、特産品づくりや販売の取り組み、農産物加工直売施設の整備・運営状況を視察しました。
農産物・特産物づくりの取り組みでは、直接的に市が特産物を開発してはませんが、上田ブランドの農産物の確立を目指し、生産者の取り組みや加工施設の改修等への経済的支援、地産地消推進会議

による推奨品の認定を行っています。また、上田地域の食材を積極的に使用販売している飲食店・旅館等を地産地消推進の店に認定し、地産地消の推進を図っています。
さらに、上田市丸子農産物直売加工センター「あさつゆ」を視察しました。地域の生産者が組織された農産物加工施設運営組合が施設の指定管理者となり、管理運営を



上田市丸子農産物加工センター「あさつゆ」

2月8日・9日・群馬県藤岡市・長野県御代田町 文教厚生常任委員会(町民の健康づくり対策)

フィンランド発の健康ウォーキング

藤岡市では、高齢者筋力トレーニングを視察しました。高齢化の進行した旧鬼石町で、より多くの高齢者が地域でいつまでも元気で暮らせるように、平成13年度に行政と老人クラブ、群馬大学が連携し、介護予防のためのモデル事業として、筋力トレーニングを開始

地区88会場を実施し、藤岡市の高齢者人口の約1割が参加しています。今後は、介護サポーターの育成、実施会場をさらに増やし、継続して参加できるように努めたいとのことでした。

地区の役員を中心に、対象者への声掛けと回覧等で募集し、介護サポーター(ボランティア)により、各会場毎週1回・1時間程度のト

また、御代田町では、ウォーキング用ポール^①を使った健康ウォーキング、健康遊具が設置されているやまゆり公園を視察。ポールを使った健康ウォーキングは約

10年前に北欧のフィンランドで本格的に始まり、平成21年4月に手軽に安心して取り組める効果的な運動として導入。町民対象の講習会や年4回のウォーキング教室を開催し、ポール購入補助金制度も導入しています。今後も一層の普及啓発に努めていくとのことでした。また、やまゆり公園内には健康遊具が設置され、説明板に従い、体を動かせるようになっており、マレットゴルフにいられた方の多くが健康遊具を利用しているとのことでした。

JR用土駅舎、着工・完成予定は



おかもとやすあき 岡本安明 議員

答弁⇒ 今秋の完成を予定しています

問 JR用土駅舎の着工・完成予定について伺います。

答 着工はJR東日本と協議し、平成24年度のできるだけ早い時期に着工し、工事の進捗によりですが、今秋の完成を予定しています。

今後の用土地区、町長の所見は

問 用土地区は、すでに関越自動車道寄居PAの上りに「星の王子さま」があります。そして24年度には完成予定のJR用土駅舎、さらに寄居PAスマートインターチェンジ^②のほか、観光再生ビジョンに掲げた「ガーデニングの里」等、用土としては夢がふくらむことが数多くあります。これらについて、町長の総合的な所見を伺います。

答 関越自動車道寄居PAに完成した「星の王子さま」と、そこに計画するスマートインターチェンジは整備後には一体となり、用土地区はもとより、町全体の新たな開発の可能性を生み出す魅力ある複合的な施設になると考えています。

また、今回整備するJR用土駅舎については、用土地区のまちづくりの新たな核となり、その誕生は新しい時代の用土地区のあり方を検討する契機にもなるものと考えています。

さらに、地域資源を生かして観光を振興することを目的に策定した、観光再生ビジョンに掲げた「ガーデニングの里づくり」では、関係皆様のご協力をいただきながら、「植木・盆栽の里」として名を馳せている用土地区の特産品をより一層活用し、花と緑と造園のまちづくりを進めていきたいと考えています。すべての皆様が夢と誇りを抱くことのできる用土地区づくりに邁進してまいります。

① コラボレーション (collaboration) … 「共に働く、協力する」の意味で、共演、合作、共同作業、利的協力を指す言葉。コラボと略されることも多くあります。

② スマートインターチェンジ… 高速道路のサービスエリア、パーキングエリアから乗り降りができるように設置されるインターチェンジ。ETCを搭載した車両のみ通行できます。

農産物加工施設建設の経過・経緯は



はらぐち たかし 原口 孝 議員

答弁⇒ 建設予定地は圃場も近いため、適地と認めました

問 農産物加工施設建設について、決定に至るまでの経過・経緯を伺います。

答 建設予定地(運動公園周辺)は景観がよく、加工品となるみかん・梅・エキナセア^③の圃場も近いことから、適地と認めました。

問 稼働日数と取り扱い品目について伺います。

答 ジュース・ジャム・アイス・うどん等、加工製品の販売と飲食に供し、年間営業を想定しています。

問 消費拡大の影響と目標数値設定について伺います。

答 顧客の反応を見ながら進めていきますので、今の段階では目標の設定はありません。

問 NPO法人組織化の状況と、内容について伺います。

答 関係機関等との協議を重ね、施設を運営管理する組織づくりを進めていきます。

問 運営方法・責任体制の内容について伺います。

答 NPO法人を設立していく中で、検討していきます。

「絵本と童話の森公園」

コラボレーション^④効果は

問 「絵本と童話の森公園」とのコラボレーションで、どのような効果があるのか伺います。

答 「絵本と童話の森公園」が整備された場合、良好な立地条件に鑑み、相乗効果により施設の魅力が増し、地域の活性化に結びつくと考えています。

裏表紙もぜひご覧ください。「よこいのえがお」が扱われています。